

新潟水俣病で起きた差別・偏見

ひ がい
被害

ポイント③ 差別や偏見

このハガキの文章
大変だ 大変だ
やばこいて、
にせ者が
本物になるなんて
良心があるのか

このハガキの文章
あけまして
ご不幸でござる
うそつきやろう
にせものやろう
ハジサラシやろう
死ねばじごくだ
※文章の中の誤記は修正しています。

これは昔、
被害者の自宅に
送りつけられた、
いやがらせの
ハガキです。

本物の 差別・偏見 のハガキ

ひどいハガキ…。
こんな心ない
言葉を、
もし自分が
言われたら、
深く傷つきます。

写真提供：新潟県立環境と人間のふれあい館・新潟水俣病資料館

※ハガキの文章中の「にせ者」「うそつき」などを囲む赤枠は、後から追加したものです。

差別・偏見に苦しんだ下流の被害者の話

私たちは法律で水俣病と認められず、国などを相手に
裁判を起こしたのですが、地域には「金ほしさに患者の
フリをしている」と冷たく見る人たちもいました。

支援を受けながら、長く苦しい裁判にようやく決着を
つけられましたが、次の世代には、私と同じような思い
を、絶対に味わってほしくありません。

上の被害者は、
昭和時代の後半に、
被害者として
声を上げた方です。

Q パネル05をチェック!

Q パネル07をチェック!

下の被害者は、
平成時代の中頃に、
被害者として声を
上げた方です。

かつて船頭をしていた上流の被害者の話

昔、渡し船の船頭だった時、乗客たちが話す差別・偏
見をよく聞いたせいで、そうした差別・偏見が子どもに
およぶのをおそれて、声を上げずにだまってきました。

平成時代の中頃に被害者を救う法律ができて、そのこ
ろは、大人になった子どもも県外に出て結婚していたの
で、やっと被害者として声を上げることができました。

「ニセ患者」などの差別・偏見

新潟水俣病の被害
者は、「ニセ患者」「金
目当て」などの、さ
まざまな差別・偏見
を受けて、苦しんで
きました。



出典：「紙芝居『新潟水俣病との出会い〜あき子ちゃんの
夏休み自由研究〜』」（一般社団法人あがのがわ環境学舎）

こうして、地域の中に対立が生まれて、
人々の絆がこわれただけではなく、差別・
偏見をおそれて、声を上げづらくなった被
害者も、多く生み出されました。

自分の子どもが
差別されることを
おそれて、当時は
だまっていた人が
多かったんだね。

被害者のための法律が
できて、そのころには
もう子どもも成長して、
大人になっていたから、
やっと声を上げる
ことができたのか。